■新常設展示

現実となった楢ノ木大学士の夢
～恐竜マメンキサウルス(モシリュウ)骨格の新設～

大石　雅之（上席専門学芸員）

「白亜紀の巨きな爬虫類の骨格を博物館の方から頼まれてあるんですが…」（宮沢賢治『楢ノ木大学士の野宿』より）。

宮沢賢治は自然史に造詣が深く、作品にそれが色濃く反映されていることはよく知られています。中でも、童話『楢ノ木大学士の野宿』は地質学的な題材を描いたユニークな作品です。楢ノ木大学士は、海岸で恐竜の足跡化石を追いかけているうちに白亜紀にタイムスリップし、生きている雷竜の仲間の恐竜に出くわしてしまう。そして夢からさめる、というのがその物語です。

賢治が亡くなって45年後、実際に岩泉町茂師の海岸で雷竜の仲間であるモシリュウの上腕骨の化石が発見されました。これは、日本の恐竜化石としては、はじめての発見です。そして今年、モシリュウの全体像を表すマメンキサウルスの全身骨格（複製）が当館で4月2日から展示、公開となりました。

モシリュウの発見とマメンキサウルス全身骨格の展示は、もしかしたら宮沢賢治が楢ノ木大学士の物語を通して、かつて求めていたものかもしれません。

岩泉町からモシリュウの発見

宮古市から田野畑村にわたる海岸沿いには、宮古層群とよばれる地質学的に重要な地層が分布しています。これは、前期白亜紀（約1億1千万年前）の浅い海にたまった地層で、貝類、ウニ、サンゴ、アンモナイトなどの無脊椎動物の化石が豊富に含まれています。

1978（昭和53）年、宮古層群の化石の調査のためにやってきた東京大学の花井哲郎先生と大学院生の加瀬友喜さんは、岩泉町茂師の海岸の近くで長さ50cmほどの骨の化石を見つけました。加瀬さんはこれを採取して東京に持ち帰り、脊椎動物化石の専門家である横浜国立大学の長谷川善和先生に研究を託しました。そしてその結果、この骨は恐竜の上腕骨であり、マメンキサウルス・ホチュアネンシスにきわめてよく似ていることがわかったのです。

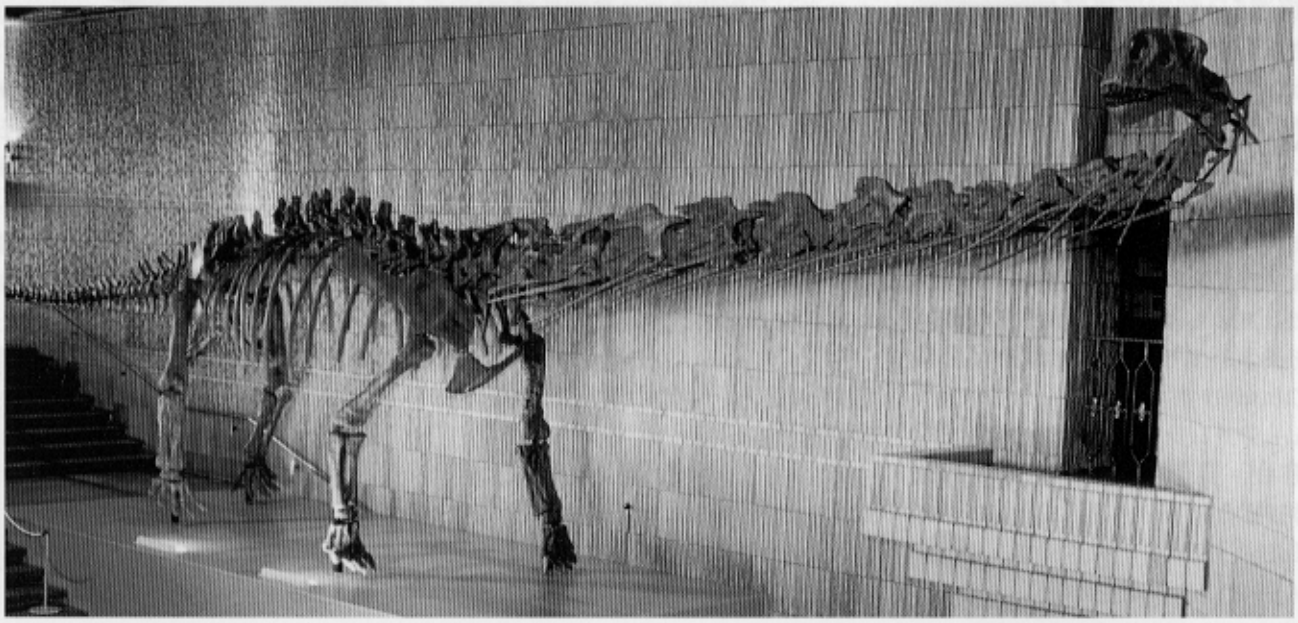
マメンキサウルスは中国で発見されている全長22mもある巨大な植物食の恐竜です。「モシリュウ」という和名が与えられた岩泉産の恐竜化石の発見で、日本にも恐竜がいたということが広く知られるようになり、その後全国各地で恐竜化石が発見されるようになりました。

マメンキサウルスという恐竜

モシリュウの仲間であるマメンキサウルスとは、どんな恐竜だったのでしょうか。マメンキサウルスはトカゲのような形の骨盤をもつ竜盤目に属します。竜盤目は、映画『ジュラシック・パーク』で有名になった肉食のティラノサウルスを含む獣脚亜目と植物食の竜脚形亜目の二つのグループに分けられます。竜脚形亜目から原始的な古竜脚下目を除いたものが、竜脚下目で、これにはマメンキサウルス、アパトサウルス（雷竜）、ブラキオサウルスのように首と尾が長い巨大な恐竜が含まれます。マメンキサウルスは中国四川省などの後期ジュラ紀（約1億5千万年前）の地層から産出し、頚椎が19個もあり、首がたいへん長いのが特徴です。約1億1千万年前の岩手に住んでいたモシリュウもこんな姿だったのです。

モシリュウの実物展示

モシリュウの上腕骨の複製は岩手県立博物館に開館以来展示されていますが、今回のマメンキサウルス骨格の新設に合わせて、国立科学博物館所蔵のモシリュウ実物が約一か月の間、岩手県立博物館で展示されることになりました（トピック展「モシリュウ実物展示～現実となった楢ノ木大学士の夢～」平成14年4月2日～5月6日）。1億年以上もの時を隔てて、モシリュウは私たちに何を語ってくれるのでしょうか。



新設されたマメンキサウルス全身骨格